

資料 1 - 3 - 2
科学技術・学術審議会
研究開発基盤部会
先端研究開発基盤強化委員会
(第 6 回)
令和 8 年 10 月 22 日

研究基盤協議会 オールジャパンデータプラットフォーム事業実行委員会 取組のご紹介

荒砂 茜

一般社団法人 研究基盤協議会 理事

東海大学 大学戦略本部 次長代行 / 学術戦略研究所 准教授(URA)



ミッションと構成

委員会の ミッション

研究設備・研究データ・AIを有機的につなぎ、研究データの管理・利活用の推進と、設備情報・利用実績等の可視化・戦略的活用を通じて研究活動と研究基盤マネジメントの高度化を図る。

国の施策や関連事業との橋渡しを担い、大学・研究機関が方向性を共有し、連携・協働して次世代研究環境を構築するためのハブとなる。

小委員会 ① 長井・荒砂

研究設備データガバナンスの実装支援

計測データの取得・保存・管理・共有・利活用を支援

研究データマネジメント

小委員会 ② 米澤・荒砂

研究データ関連事業との連携

共同利用・共同研究システム形成事業やARIM事業等との連携・接続

小委員会 ③ 古川・境

研究設備共用・共通データプラットフォームの構築

設備情報・利用実績等の共通化と大学間での活用

研究基盤マネジメント

横断的な連携：データ管理・利活用人材の育成／国の施策・関連事業との接続

実行委員会のメンバー

荒砂（研究基盤協議会理事・委員長／東海大学）、米澤（研究基盤協議会理事・副委員長／九州工業大学）、古川（研究基盤協議会理事・副委員長／新潟大学）、境（研究基盤協議会理事・副委員長／宮崎大学）、長井（団体内正会員・副委員長／金沢大学）、研究基盤協議会正会員機関からの参画委員の皆様

3年後の到達目標と2026年度の成果

小委員会

3年後のゴール

2026年度のゴール・成果物

① データガバナンス 実装支援

研究設備から生まれる計測データの管理から利活用までの仕組みが、各大学の実情に応じて実装され、定着している。

- ・ 参画委員の所属大学の現状調査、先行機関・関連事業へのヒアリング
- ・ 研究データガバナンス実装モデルの試案と研究基盤EXPOにおける公開・意見徴収

② 研究データ関連 事業との連携

コアファシリティに関連する研究データの管理から利活用までを推進する事業間の連携が定着し、各事業の取り組みが継続的に連動している。

- ・ 関係機関との定期的な情報交換
- ・ 小委員会①、③への情報・好事例提供、取組の先端化に貢献

③ 研究設備共用 データ基盤

設備利用にかかるデータが共通ルールで整理され研究基盤ポートフォリオとして大学経営・政策に活用される。

- ・ 設備情報・利用実績等の既存データの整理
- ・ 大学間で共有可能なデータ項目・定義の素案作成、研究基盤EXPOでの公開・意見徴収

共通方針：各大学が現状を把握し、次の取組を判断・実行できる仕組みへ

今後のスケジュール

小委員会および全体委員会の活動活性化による2026年度目標の達成

研究基盤EXPO2027におけるオールジャパンデータプラットフォーム事業実行委員会
シンポジウムの開催

研究基盤EXPOにおける小委員会の活動報告と研究データガバナンス実装モデル、
全国研究基盤ポートフォリオ及び研究設備マスタ標準仕様 Ver.1.0の公開と意見徴収



研究基盤EXPO2027
挑む、変わる、一つになる
— オールジャパンで踏み出す、研究基盤・革新の覚悟 —

会 期
2027年 **1月26日(火) ~ 28日(木)**
2月1日(月)・2日(火)

オールジャパンデータプラットフォーム事業
実行委員会シンポジウムは **1月27日(水)**に開催決定

(参考 前回の研究基盤EXPO開催状況)



研究基盤EXPO2026
共創する研究基盤：革新と連携が拓く新たなステージ
— コアファシリティを連ね、ひろがる未来へ —

会 期
2026年1月27日(火)
～ 2026年2月2日(月)

主 催	一般社団法人 研究基盤協議会 (CORE)
共 催	文部科学省
協 力	株式会社島津製作所、日本電子株式会社、 株式会社日立ハイテク
後 援	一般社団法人日本分析機器工業会 (JAIMA)

参加登録者数

のべ数	実数
3,830 名	767 名